

憲法を生かし 核兵器も基地もない 社会を子どもたちに

憲法・平和・核兵器廃絶
メールニュース第35号
2013年3月13日(水)
全教・国民共同局

「原発いらない!」「子どもを守れ!」

「再稼働反対!」4万人の声ひびく(3・10集会)

東日本大震災から2年目。その前日の3月10日、東京の日比谷公園では、午前・午後をわって「原発ゼロ」を求める集会が行われました。

午前中は、「原発なくす全国連絡会」主催の「3・10東京集会」に5000人が参加しました。被災地からの訴えとして、福島の高校生の朗読グループ「たねまきうさぎ」が「大人の皆さんに聞いてもらいたい」と、中学生の手記と自分たちの思いを朗読し、彼女たちの率直な訴えに、参加者は聞き入りました。

午後からは、日比谷野外音楽堂で「首都圏反原発連合」主催の「原発ゼロ☆大行動」に6000人が参加。会場は熱気と人であふれました。そして、長い長い国会への請願デモのあと、17時から19時まで国会議事堂前で集会。どんどん冷え込むなか、次々とリレートークを行い、4万人が「原発いらない!」「子どもを守れ!」とシュプレヒコールをあげ続けました。



この日は、全国300か所以上で、様々な集会・パレード・宣伝行動がとりくまれました。また、3月9日には「さようなら原発大行動」がとりくまれました。政府は、新たな「安全神話」をつくりだし、再稼働に突き進もうとしていますが、国民はやっぱり「原発ゼロ」を望んでいます。日本じゅうからこの声が大きく示されました。

「たねまきうさぎ」・福島的女子高校生4人の訴え

【Kさん】震災から2年がたち、原発問題について私たちも考え続けてきました。高校生、子どもという立場からは、今回の事故は、政府・東京電力をはじめ大人の責任であって、私たちの世代が決めて引き起こしたことではありません。しかし、その被害は私たち若い世代の子どもに多く表れてしまっています。私は、今月、高校を卒業しましたが、子どもたちはいずれ大人になります。私たちが大人の立場になったとき、万が一、どこかで今回のような原発事故が起こったら、大人になった私は、どのような責任が取れるだろうか。

福島の原発事故は、もう2度と繰り返してはなりません。今回の福島原発事故の全容をきちんと学び、将来どんな社会をつくるのかを考えることが大事だと思います。そして、私たちは社会への

責任が取れるように、もっと自分たちで選択し、決定することが必要だと思います。

【Sさん】 今、はっきり言えることは、原発は絶対になくした方がいいということです。万が一の事故があってからでは、もう遅いのです。原発によって壊される環境や失われる命があることを、後回しにしないでほしいのです。どんな難しい問題よりも、大切なかけがえのない「いのち」を優先してほしいと思います。

私たちは、ヒロシマ・ナガサキの原爆、そしてビキニ事件によって、核の恐ろしさを知っているのに、まだ原子力に頼り続けるのでしょうか。「原子力の平和利用」の嘘から目覚めず、これを使い続けるのは、私たちの命ばかりか、地球や人類の未来も危険にさらしているのです。

この2年、日常の中で原発事故は少しずつ遠くなっています。しかし、原発事故は収束しておらず、きょうも作業員の方々が被曝と向き合いながら作業にあたり、住人は何年も家に戻れない避難が続き、除染も一向に進まないという福島の現実を見る必要があります。

そして、忘れないために福島の現実を見てください。私たちの声を聞いて下さい。

【Sさん】 福島原発事故からもう2年が経とうとしています。未だに事故は収束していません。そればかりか、今もなお、放射性物質が放出され、原発自体も危機的状況にあります。いつ倒壊してもおかしくない4号機の核燃料プールには、「北半球の生物を滅ぼせる」といわれるほどの放射性物質があるそうです。そんな状況の中、命がけで作業している人がいます。また、自分の家に帰れない人、風評被害で苦しんでいる人、自由に外で遊べない子どもが今もたくさんいます。こんなに多くの人の自由を奪ったのに、それでも原発を推進しようとする政府の考えを私は理解できません。原発がクリーンで安全なエネルギーだというのは、まっかなウソでした。それを今、私たちは知っています。それでも、原発は必要ですか？ 他の原発を再稼働させたいですか？ 平和な当たり前の生活を簡単に奪っていく原発はもうありません。

目に見えない放射能の恐怖におびえる日々はもう嫌です。放射能によって、不安で苦しくて悲しい思いをするのは福島を最後にしてください。

【Yさん】 私は、原発に反対です。原発をなくしてほしいと思います。しかし、廃炉には多くの時間とお金がかかり、原発の代替エネルギーの開発や原発で働く人たちの雇用の問題など、単純には解決できない現実問題があります。

巨大地震はいつどこで起こるか分かりません。原子力発電は絶対に安全だという安全神話は、もう存在しません。しかし、原発事故が起こった場合は、人々が生活する地域が丸ごとダメになります。低線量でも、その影響は絶対ないとは言えないはずで、人の命はお金では買えません。原発の利点より、人の安全のことを第一に考えるべきだと思います。

福島の私たちの不安や悲しみは、世界中のヒバクシャ、公害や薬害で苦しんできた方々と共有できると信じています。被害を受ける当事者の立場に立てば、きっと分かり合えるはずで、

私は県外に出るとき、福島県人というだけで差別されないかと不安になります。原発事故で住み慣れた家や地域を離れ、放射能の不安におびえ、考え方の違いから対立し、未来の人生をゆがめられた被害者を差別することはあってはならないはずで、

原発のことも差別のことも、日本の社会を本当に憲法が生かされる社会に変えることで乗り越えなければならないと思います。

今回このように、私たちの思いを伝える場を与えていただき、本当に感謝しています。どうか、私たちの思いが、聞いて下さったみなさまだけでなく、日本中に届くことを心から願っています。